

地域版地域ケア会議実施報告

令和4年度 世田谷 地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催 10回

地域ケア連絡会（コア） 5回
参加者（所属）：あんしんすこやかセンター

地域ケア連絡会 4回
参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぼーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所（地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課）

地域版地域ケア会議 1回
参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、世田谷地域社会福祉協議会、成年後見センター、ぼーと世田谷（地域障害者相談支援センター）、世田谷ボランティアセンター、ぷらっとホーム世田谷、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、総合支所（地域振興課、生活支援課、保健福祉課、健康づくり課、子ども家庭支援課）、各地区の四者（まちづくりセンター、地区社協、あんしんすこやかセンター、児童館）

抽出された地域課題（前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
8050問題	80歳代の親世代のケアを通した50歳代の子ども世代への支援介入について
内容	・80歳代の親世代をケアするあんしんすこやかセンターやケアマネジャー等の支援者が、ひきこもり等の50歳代の子どもへの支援介入をどこまでしたら良いか。 また、見守りの時期と支援介入のタイミングを図ることが難しく、なかなか50歳代側の専門職支援につながらない
カテゴリー	テーマ
8050問題	多問題における関係機関との連携強化
内容	・8050問題は、個々の個別事例が未治療、ひきこもり、生活困窮など支援内容が多岐にわたり、かつ複雑化している場合が多い。このため、連携のタイミングを逸したり情報の共有が図りにくい場合がある
カテゴリー	テーマ
認知症	認知症の人の活躍の場、居場所について
内容	・認知症の症状はあるが身体的機能には問題が無く、活動性が高い方（特に男性）や就労意欲のある方の居場所、活躍の場がない。 既存の介護保険サービスには馴染まない、違和感を感じる人への居場所等の社会資源開発が必要。
カテゴリー	テーマ
認知症	地域での認知症高齢者の理解及び見守り支援
内容	・地域での認知症に関する知識や理解が十分でなく、病院等の施設入所が望ましい等の地域での生活から除外する傾向が少なからず散見される。 ・重度化する前の予防的な備えや見守りの体制のさらなる強化として、地域の支援者の新たな発掘が必要である。 ・セキュリティが厳重な住居に住んでいるため、認知症高齢者の方への早期アプローチが困難な状況増えている。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>8050問題における50歳代への支援介入 80歳代の親世代の支援者が、50歳代の子ども世代の支援者へ引き継ぐが、なかなか支援介入に至らない。 50歳代の方への関わりを理解し、介入支援のタイミング等を図るアセスメントが十分でない。</p>	<p>地域ケア連絡会において、50歳代のひきこもりに関する理解及び支援の在り方を深めるため、外部講師との勉強会を実施。加えて、相談窓口「リンク」の職員を交え、ひきこもりの具体的な事例を通して支援内容を共有した。そして、各関係機関の役割や効果的な連携について意見交換を行い、のりしろ型支援の必要性を共有した。</p>
<p>多問題事例における関係機関との連携強化 8050問題をはじめとする多問題事例は、各関係機関ごとに支援アプローチが異なる。支援者相互の理解及び情報の共有が十分でないため、連携のタイミングを逸することがある。</p>	<p>地域ケア連絡会における上記の取組みに加え、各関係機関で支援内容の共有及び意見交換を行いながら、情報共有の在り方や相互理解を深め、ネットワーク強化に取り組んだ。 ぼーと世田谷が、各あんしんすこやかセンターを巡回し、情報共有等を行いながら相互に連携しやすい関係づくりを継続した。</p>
<p>地域全体で取組む地域づくり 地域行政推進条例及び計画、介護保険法等に基づき、区民・関係機関・区が一体となって、有機的な地域づくりを一層推進していく必要がある</p>	<p>地域版地域ケア会議において、地域振興課との合同企画で、地域行政推進条例及び計画におけるまちづくりセンター・総合支所の機能を理解し、庁内の横断的な地域づくり等の意識の醸成に取り組んだ。そして、各まちづくりセンターにおける地域包括ケアの地区展開の取り組みを共有し、各関係機関等を含めた連携強化を図り、地域包括ケアシステムの推進に取り組んだ。</p>

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

< 今後の方向性 >

地域包括ケアの地区展開でのアセスメントに基づく社会資源開発等の四者連携の取組みと併せ、区民・関係機関・区が一体となって各地区の特徴や強みを活かし、ネットワークの強化を図りながら地域づくりに取り組んでいく。

< 残された課題 >

- ・見守りの対象外ケースを把握する取組み（8050事例や地域から孤立化し同居家族がキーパーソンになれず問題が重篤化するケース等）
- ・制度の狭間の問題（既存の福祉サービスでは十分な支援ができない、所管課が不明確なケースの支援、ごみ屋敷など）

地域版地域ケア会議実施報告

令和4年度 北沢 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 <u>5</u> 回	
参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課	
地域合同包括ケア会議としての開催 <u>3</u> 回	
参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、成年後見センター、ぷらっとホーム世田谷、北沢地域障害者相談支援センター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、保健福祉センター所長、地域振興課、まちづくりセンター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課、児童館	
テーマ：「北沢地域版地域ケア会議報告書」の「地区・地域課題シート」の11項目から、「本人が家族・地域から孤立している」を課題とし、「孤立予防に向けた人材育成へむけて」をテーマに、関係機関の強みを活かした地域づくりについて取り組んだ。	
抽出された地域課題（前年度から継続する地域課題を含む）	
令和2年度、北沢地域では、設定した12の地域課題が抽象的で具体的な取組みにつなげることが困難だったことから、過去に開催した地区版地域ケア会議を振り返り、地区の取組みにつなげることを意図して、より具体的なレベルで地区・地域課題を抽出した。 (北沢地域版地域ケア会議報告書(p.15~22参照))	
本人の課題	1. 本人が家族・地域から孤立している
	2. 本人は身体・認知機能低下・精神症状等により生活を送ることが困難になる
家族の課題	3. 家族が拒否や思い込み、経済困窮等があるので、本人への適切な支援が入らない
家族・支援者の課題	4. 家族や支援者等は認知症や精神疾患等への理解不足がある
	5. 家族や支援者は本人に必要な支援が入らないと負担が増す
支援者の課題	6. 支援者が複数いると支援者同士の連携が困難になる
	7. 支援者は、介入困難な状況が長期化すると、対応に困り疲弊する
	8. 支援者（専門職）が適切な情報収集・アセスメントができず、対応に困難を感じる
地域の課題	9. 地域はつながりのない本人の見守りが難しい
	10. 地域には高齢者・障害・子ども等の複合的な支援が必要な世帯がある（例8050など）
	11. 地域には柔軟なサービス提供の仕組みがない
これら11項目のもとに、より具体的に「主体」「原因」「結果」を明確に記述した小項目を設けている。また、新たな地域課題が抽出された場合、課題を追加し、「見える化」する。	

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>オンラインによる交流</p> <p>コロナ禍で対面での交流が限られている現状で、活動の工夫やリモートでも繋がれる方法を考えていくことが必要。</p>	<p>10月の連絡会において、町会・自治会、民生委員児童委員などの地域の方にも参加をいただき、あんしんすこやかセンターにおけるデジタル講座の取り組みの発表を行った。</p> <p>また、講座運営ボランティア、オンラインお話会の参加者にも発表していただき、デジタル社会で高齢者対象の講座を開催することの必要性やオンラインでつながる機会があってありがたいとの話があった。</p> <p>参加者からは、今後のデジタル講座を企画する上で参考になった、なるべくスマホに触れる機会を増やして自分も頑張りたいとの感想が聞かれ、オンラインによる交流や活動を充実させるような地域づくりへのきっかけの場とすることができた。</p>
<p>集合住宅における見守り・つながり</p> <p>高齢者世帯の社会的孤立の増加が懸念されている現状で、特に集合住宅入居者について、当事者に近い位置にいる管理人や住民などによる見守りができるような工夫を考えていくことが必要。</p>	<p>「オンラインによる交流」と同様に、10月の連絡会において、あんしんすこやかセンターのマンション管理組合と連携した取り組みの発表を行った。</p> <p>マンション管理組合理事長にも発表していただき、理事会であんしんすこやかセンターの事業周知をしたこと、住民向けに認知症等の理解を深める機会があると良いとの話があった。</p> <p>マンション管理組合と連携することで、新たな見守りネットワークの構築や、またマンション住民をあんすこボランティアや地区サポーターなどの地域人材にもつなげることを共有することができた。</p>
<p>ケアマネジャーの孤立</p> <p>困難ケースでケアマネが孤立しないように、地域でのネットワークづくりについて考えていくことが必要。</p>	<p>保健福祉課とあんしんすこやかセンターの合同企画で開催した1月の連絡会において、主任ケアマネジャー、ケアマネジャーを対象に「地域で孤立している方のアプローチ手法」や「ケアマネジャーが孤立しないためのネットワークづくり」をテーマに架空事例を用いたグループワークを行った。</p> <p>参加者からは、ケアプラン作成時には介護保険サービスが多くなりがちだが、それ以外の社会資源も検討していきたいという意見も聞かれ、利用者を「地域で生活する住民」と捉えて個別支援することが重要であり、個別支援を地域でサポートすることが地域包括ケアにつながることを共有することができた。</p>

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

- ・令和5年度は、北沢地域の地区・地域課題である「認知機能低下によるセルフケア能力の低下があり、保清・金銭管理・安全管理等に支障が出る」をテーマに取り組む。
- ・世田谷区版地域包括ケアシステムは、「誰もが」安心して暮らしていく地域社会をつくっていくものであるが、現在は高齢者が中心の取り組みになっている。障害者、子ども、生活困窮者など、高齢者以外の分野を地域ケア連絡会でどのように取り上げるか、検討が必要である。

地域版地域ケア会議実施報告

令和4年度 玉川 地域

地域版地域ケア会議の開催状況

地域ケア連絡会としての開催 9回

参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぼーとたまがわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、介護予防・地域支援課、健康づくり課、保健福祉課
 内容によって、居住支援課、住まいサポートセンター、玉川警察署が参加

地域合同包括ケア会議としての開催 2回

参加者（所属）：
 あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぼーとたまがわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、メルクマールせたがや、介護予防・地域支援課、生活福祉課、生活支援課、健康づくり課、保健福祉課
 障害者施設、障害居宅介護、主任ケアマンジャー、訪問看護、あんしんすこやかセンター、玉川地域障害者相談支援センター（ぼーとたまがわ）、社会福祉協議会、ぷらっとホーム世田谷、成年後見センター、メルクマールせたがや、民生委員、介護予防・地域支援課、保健福祉政策課、生活福祉課、生活支援課、健康づくり課、保健福祉課

テーマ：
 「ひきこもり相談窓口 リンク」との意見交換
 「ひきこもり相談窓口 リンク」の事業内容や取組みを理解し、今後の相談等が円滑に繋がられるよう連携を深める機会とした。
 移行に向けた連携について皆で考える～障害福祉サービスから高齢福祉サービスへ～
 玉川エリア自立支援協議会との共同開催。65歳到達した事例を通しサービスを円滑に移行するために、各関係機関が「自分ができる事」「こんなことができたらいいいね(こんな仕組みがあれば)」「それをどうしたら実現できるか」等を一緒に考え、連携を深める機会とした。

抽出された地域課題（前年度から継続する地域課題を含む）

カテゴリー	テーマ
孤立	独居の前期高齢者が地域と関わりがなく孤立している
内容	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を控える高齢者が多く、地域と繋がりがない特に70歳代独居の男性高齢者の孤立死事案が多発した。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	特殊詐欺等の被害の増加
内容	玉川地域において被害実態はかなり広がりを見せており、その被害は深刻なものとなっている。詐欺の手口や被害状況等、広報誌等を活用し注意喚起を行い、地域住民の関心や見守りに関する意識を高める必要がある。
カテゴリー	テーマ
認知症・見守り	独居の認知症高齢者の増加
内容	地域と繋がっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が見受けられる。
カテゴリー	テーマ
連携・制度の狭間	8050世帯に対して早くからのアウトリーチや課題整理の取組み
内容	ひきこもり・精神疾患・身体障害・8050などの家族がいることによって起こる家族問題を抱える世帯が増加。問題も複雑化しており表面化した際には対応が難しくなっている。
カテゴリー	テーマ
災害支援	避難行動要支援者への支援
内容	多摩川洪水浸水想定区域における風水害の避難行動要支援者に対する支援について、具体的な支援法と介護保険事業者との役割分担の整理と検討が必要。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>前期高齢者の孤立</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を控える高齢者が多く、地域とのつながりのない特に70歳代の独居男性の孤立死事案が多発した。また、実態把握訪問を実施する中で独居の未婚女性の孤立も明らかになった。</p>	<p><地区・地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に地域の共通課題として位置づけ取組みを開始した。 令和3年度より共通のチラシと質問票を使用し「高齢者の社会的孤立を予防する」ことを目的に、各あんしんすこやかセンター毎に訪問地区・対象者と人数の目標を設定し「前期高齢者実態把握訪問」を実施し、3年間取組みを継続することとした。 令和4年度は、独居男性に限定せず広く前期高齢者を対象として実施。また、各地区で行う事業のテーマ設定の際に質問票の集計結果を参考として活用。 ボランティア活動に興味のある方を活動に繋げた。
<p>8050世帯の課題整理の取組み</p> <p>家族の中で問題を複雑化させないためにも、状況を早めに把握することが重要。多機関で連携し課題を整理し支援していくことが必要。</p>	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議にてサービス事業者との連携の取り方について検討を行った。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月に開設した「ひきこもり相談窓口 リンク」との意見交換会を拡大地域版地域ケア会議として開催し、事業の内容・相談の流れ・具体的な連携の事例を共有し、連携の強化を図った。
<p>独居の認知症高齢者の増加</p> <p>地域と繋がっていない独居高齢者が多く、関わるタイミングによっては認知症が進行してしまい、生活に支障が生じてしまう事例が見受けられる。</p>	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の見守りをテーマに地域ケア会議を開催。集合住宅での見守りが強化された。今後、アクション講座の普及啓発、若い世代への発信など四者連携で取組みを検討していく。 アクション講座参加者に参加を募りアクションチームの会議を開催。参加者から地区内での居場所づくりが提案された。今後チームでできる事を継続して検討していく。 地区包括ケア会議にて希望条例を取り上げ、条例について理解を深めた。 認知症当事者や家族が安心して集える「カフェ」を地区の事業所の協力を得て開設した。
<p>特殊詐欺等の被害の増加</p> <p>玉川地域において被害実態はかなり広がりを見せており、その被害は深刻なものとなっている。詐欺の手口や被害状況等、広報誌等を活用し注意喚起を行い、地域住民の関心や見守りに関する意識を高める必要がある。</p>	<p><地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 見守り活動団体の交流会を開催し特殊詐欺等の情報周知を行い、活動の質の向上を図った。 玉川警察署ふれあいポリスの協力を得ながら、ケアマネ連絡会での勉強会やサロン・地域デイ・ふれあいルーム等で注意喚起を行った。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 玉川警察署との意見交換会を実施。詐欺の手口や対応方法など共有した。今後も年1回実施し連携強化を図っていく。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

- 令和5年度は地域の共通課題「前期高齢者の孤立」の取組みの最終年となり、3年間の取組み状況をまとめ新たな地域課題の把握と各あんしんすこやかセンターの地区活動に活かしていく。
- また、「地区活動の担い手の発掘」を意識し、新たな社会資源の創出と高齢者の閉じこもり予防に取り組んでいく。
- 令和4年度に実施した地区版地域ケア会議の残された課題から地域の共通課題を整理し、新たな地域の共通課題に対する具体的な取組みを検討する。
- 独居の認知症高齢者が増え問題も様々である。特に身寄りのいない高齢者の場合、成年後見の手続きに時間を要しその間の支援が課題となっている。
- 詐欺被害が多発しており、その被害は深刻度を増している。

地域版地域ケア会議実施報告

令和4年度 砧 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 <u>10</u> 回	
<p>参加者（所属）：あんしんすこやかセンター、地域障害者相談支援センター、砧地域社会福祉協議会、成年後見センター、ボランティアビューロー準備室、健康づくり課、介護予防・地域支援課、保健福祉課</p> <p>テーマによっては、上記に加え、成城警察署、成城消防署、ぱらっとホーム世田谷、認知症在宅生活サポートセンター職員も参加した。</p>	
地域合同包括ケア会議としての開催 <u>1</u> 回	
<p>参加者（所属）：各地区あんしんすこやかセンター、主任ケアマネジャー、ケアマネジャー、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、MSW（医療ソーシャルワーカー）、サービス提供責任者、福祉用具事業者、保健福祉課 総勢91人</p> <p>テーマ：砧地域 医療と福祉の連携懇談会 「健康寿命を延ばすための多職種連携 ～サルコペニア・フレイル・オーラルフレイルを予防するには～」ZOOM開催</p>	
抽出された地域課題（前年度から継続する地域課題を含む）	
カテゴリー	テーマ
理解、制度	金銭管理に問題が生じている高齢者への支援
内容	収支が合わないなど金銭管理に問題が生じていても、生活スタイルを変えることが難しい方への適切な支援が課題となっている。特に、問題解決の必要性を感じていない高齢者へのアプローチが難しい。
カテゴリー	テーマ
連携、地域活動	高齢者が成年後見制度利用にスムーズに繋がるには
内容	認知症高齢者や親族のいない高齢者が、金銭管理や契約行為が困難になったときに、それらを第三者に任せるとも安心だと思っただけのよう、まずは高齢者の身近な支援者であるケアマネジャー等に対して成年後見制度やその活用について理解を深めていただく必要がある。
カテゴリー	テーマ
連携、制度	8050世帯を支援する関係機関の連携のあり方
内容	親（80世代）と子（51世代）のそれぞれの支援者同士の連携のあり方について、支援者間で考え方の相違があるため、世帯としての支援体制を構築することが難しい。連携の際の個人情報の取扱いについても整理が必要。
カテゴリー	テーマ
制度、地域活動	外出手段がなかなか確保できない高齢者への支援
内容	移動が困難な方のタクシー等の外出手段の確保が課題。コロナ禍を経、タクシー運転手の雇用問題やIT化等による配車依頼方法の変化も影響している。昨今、高齢運転者のリスクが社会的な注目を浴びているが、移動手段を確保できないことが運転免許を手放せないことの一因となっていることも会議の中で確認した。
カテゴリー	テーマ
理解、質の向上	医療ニーズの高い高齢者の多摩川水害時の避難について
内容	避難行動要支援者に位置づけられない高齢者で医療ニーズの高い方について、当事者および支援者に避難の備えができていない。（事前避難の必要性や、避難所での対応に限界があることなどの理解や普及啓発が必要。）

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>見守り、地域活動</p> <p>認知症高齢者を地域で支えるためには、既存の公的サービスでは十分に対応できず、インフォーマルな取り組みが必要となってくる。このインフォーマルな部分を支える、地域で活躍するボランティア等の担い手の創出が課題。</p>	<p>地域での取組みとして、令和2年度に認知症サポーター養成講座修了者の地域での活用について、担当所管課と意見交換等を行って以降、その後は「認知症とともに生きる希望条例」の施行にあわせて、各地区で展開しているアクションチームの結成に向けた取り組みについて情報共有や意見交換を行っている。令和4年についても同様に情報・意見交換会を開催し、地域で活躍する担い手の創出について話し合う場をもった。</p>
<p>見守り、制度</p> <p>収支が合わないなど金銭管理に問題が生じていても解決の必要性を感じていない高齢者に対する支援が課題。</p>	<p>地域での取組みとして、まずは、金銭管理を支援する制度について確認し、それを管轄する関係機関と情報交換や意見交換を行い、ネットワークを構築して支援に繋がらない方にどのように対応していくのか話し合いの機会を持った。次年度も継続して取組み、具体的に行動変容に繋がるようなアプローチ方法について話し合いを持つ予定。</p>
<p>理解、見守り、地域活動</p> <p>多摩川水害時の避難を想定したとき、避難所での対応には限界があるが、そのことに理解が及んでいないことが課題。</p>	<p>地区での取組みとして、水害時の避難アンケートをケアマネジャーに対して行い、その結果をもとにケアマネジャーおよび相談支援専門員向けの講座を開催。避難行動要支援者個別避難計画とBCPについて情報共有する機会を持つとともに、災害時の避難についての限界を知ることによって今後の支援について考えるきっかけづくりを行った。</p>

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

- ・ 早い時期から金銭管理に関する支援機関等につなげるための仕組みづくりが課題。また、あんしん事業から成年後見制度への移行が円滑に進むような取り組みや、あんしん事業のお試し利用の仕組みづくりなどが望まれる。一方で、世帯単位で金銭管理を支援する仕組みづくりの検討も望まれる。
- ・ 大規模団地の建替えが予定されており、高齢者の利用可能なごみ収集サービスの拡大が求められる。また、低所得者に対してはゴミの片付け支援として助成制度等の創設も望まれる。
- ・ 高齢者が元気なうちから将来について考え、不測の事態に備えることの大切さへの理解が進まず、円滑な支援に支障が生じていることが課題となっている。
- ・ 人生の最期を自宅で過ごす方が増えてきているが、その中には身寄りがなく地域で孤立している高齢者もいる。在宅医療介護体制とは別に、看取り現場を支えるインフォーマルな取り組み（専門性の高い傾聴ボランティア的な人材の派遣等）があるとよい。
- ・ 日本語以外の言語を話される高齢者への支援について、多言語の相談に対応できるようITを活用した環境の整備が望まれる。各あんすこに通訳と繋がるタブレット端末を設置できないか。

地域版地域ケア会議実施報告

令和4年度 烏山 地域	
地域版地域ケア会議の開催状況	
地域ケア連絡会としての開催 8回	
参加者(所属): あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、ぼーとからすやま(地域障害者支援センター)、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぶらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、タンドル南烏山、久我山病院ケアオフィス、子育て支援コーディネーターぶりっじ、まちづくりセンター、健康づくり課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課、保健福祉課、日本大学文理学部社会福祉学科教授、烏山ボランティアビューロー	
地域合同包括ケア会議としての開催 1回	
参加者(所属): あんしんすこやかセンター、烏山地域社会福祉協議会事務所、ぼーとからすやま(地域障害者支援センター)、成年後見センター、成年後見区民後見人、ぶらっとホーム世田谷、訪問看護ステーション芦花、特別養護老人ホーム久我山園、松沢病院、タンドル南烏山、久我山病院ケアオフィス、子育て支援コーディネーターぶりっじ、まちづくりセンター、健康づくり課、生活支援課、介護予防・地域支援課、地域振興課、街づくり課、駅周辺整備担当課、保育園、児童館、保健福祉課、日本大学文理学部社会福祉学科教授、上祖師谷地区町会自治会連合会、烏山福祉作業所、権利擁護支援センターぷしゅけ、民生委員・児童委員、特別養護老人ホームフォーライフ桃郷、烏山ネット・わあーく・ショップ	
<p>テーマ: 「積極的見守りづくり」を考えよう! ~介護を必要とする人が活躍する場づくり~</p> <p>令和2年度までに取り組んだ成果と令和3、4年度の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「制度の移行」「8050問題」「身元保証」「残されるペットや植物」等について ・「介護を必要とする人が活躍する場づくり(積極的見守り)」について <p>講演 「夢のみずうみ村の取り組みについて」~高齢者の主体性を活かして~</p>	
抽出された地域課題 (前年度から継続する地域課題を含む)	
カテゴリー	テーマ
見守り・地域活動	介護を必要とする人が活躍する場づくり(積極的見守りづくり)
内容	特技、趣味、好きなことをして、自分らしい生活をどう継続して行くか、今までのつながりをどう維持し、新しいつながりをどう作っていくか。介護を必要とする高齢者や認知症への理解、どのような場が介護を必要とする人が活躍する場(=積極的見守りの場)になるのか、どのような人が支える人になるのかを考える必要がある。
カテゴリー	テーマ
制度	「8050問題」(制度の狭間)
内容	心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある66歳未満の子の支援を行う機関が明確でない等、継続した支援を行うことが難しい。
カテゴリー	テーマ
制度	制度の移行
内容	66歳になり障害福祉の制度から介護保険制度へ移行する際に、円滑なサービスの移行が難しい。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	身元保証
内容	今は元気でひとり暮らしに困らない方でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面がある。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	残されるペットや植物
内容	ペットの世話が心配で必要な入院・入所が出来ない方や飼い主の急な入院・入所で自宅に残されてしまうペットがいる。
カテゴリー	テーマ
権利擁護	妄想についての理解
内容	妄想による行動がある方について、地域住民の妄想への理解を深めることが難しい。

地区・地域等による取組み

地域課題	取組み状況
<p>積極的見守りづくり<>> 介護を必要とする人が活躍する場づくり（＝積極的見守りづくり）の必要性やそれを支える人が必要であること、また、介護が必要になる前に若い頃から自分らしく生きるための準備として、地域とつながることが重要であることについて理解してもらうための普及啓発が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発に活用するツールとして、チラシ「～あなたの力が必要です～介護が必要になってもいきいき自分らしく過ごすために」を作成し、それぞれの関係者が活動している場所で普及啓発を行う。 ・並行して日頃の活動の中で、場に関することや積極的見守りの場につながった事例等について情報や体験を蓄積していく。
<p>「8050問題」（制度の狭間） 心身機能が低下した親と暮らしている生活能力に課題のある65歳未満の子の支援が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度より「ぼーとからすやま（地域障害者相談支援センター）」が事務局の「ぼーと会議」を実施している。「ぼーと会議」では、多職種の支援関係者が8050世帯の見立て（主に50の子について）を行い、家族としての支援の方向性を確認し、役割分担の確認を行っている。（計2回）
<p>制度の移行 65歳になり障害者総合支援法から介護保険法へサービスが移行する際に、円滑なサービスの移行が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より保健福祉課が事務局の「移行会議」を実施している。「移行会議」では、65歳になる6ヶ月前までに高齢・障害の担当者が移行までのスケジュールや役割分担の確認を行っている。
<p>身元保証 今は元気で一人でも困らない人でも、特に、医療・住まい・就労の手続きにおいて、保証人や代理人がいなくて困る場面があり、検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度に烏山地域における試行として、緊急搬送時の円滑な対応および自助の機運醸成を図ることを目的に、「熱中症予防シート」に、緊急連絡先等の記入欄を追加したものを配布し、令和2年度より世田谷区内全地域での配布に拡大された。 ・令和2年度より烏山地域社会福祉協議会が、烏山地域内の3地区で配布している「緊急時安心ツール」について、様式統一化した。
<p>残されるペットや植物 急な入院・入所等によって残されてしまうペット達について、検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より烏山地域社会福祉協議会が、「緊急時安心ツール」の様式統一化と合わせて「ペット用いのちのボタン（緊急時安心ツールのオプション）」の配布を開始した。

今後の方向性・残された課題（全区レベルでの検討が望まれる課題等）

<今後の方向性>
「介護を必要とする人が活躍する場づくり（積極的見守りづくり）」について、普及啓発と並行して日頃の活動の中で、場に関することや積極的見守りの場につながった事例等について情報や体験を蓄積していく。

令和5年度は、これまで取り組んできた地域課題の振り返りを行い、取組み状況の確認、更新（アップデート）に取り組む。